



第32回 子ども郷土研究 最 優 秀 作 品

私の住んでいる 大町の守り神 道祖神

土浦小学校5年

よどなわ
淀縄ひかりさん

「子ども郷土研究」は、小・中学生が調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、我が郷土“つちうら”を見つめ、理解を深めることを目的に実施しています。

今回は113点の応募作品から、淀縄ひかりさん(土浦小学校5年)の作品『私の住んでいる大町の守り神 道祖神』が最優秀賞に選ばれました。

今号では、その作品(地図および写真などを一部省略。すべて原文のまま)を紹介します。



小祠の前に立つ淀縄さん

1 研究の動機

毎年春の決まった日に、おばあちゃんがおもちゃを作って持って来てくれました。どこのどんな行事で作ってくれているのか前から気になっていたので、おばあちゃんに聞いてみると、私の町にある道祖神での行事だということなので、興味を持って調べてみました。

2 研究の方法

- ① 本で調べる
- ② 現地に行つて写真を撮る、話を聞く
- ③ 土浦市についてくわしい方に、インタビューをする

3 研究の内容

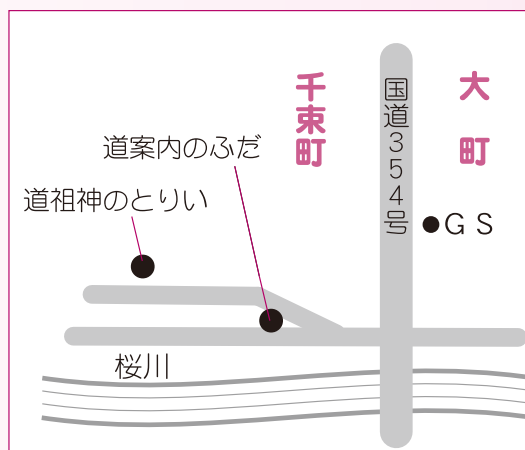
大町の道祖神について調べる前に、道祖神とはどういうものなのか、本で調べてみました。

□道祖神とは...

道祖神は、道陸神ともよばれ、塞の神、幸の神、歳の神など記されることもあります。また、道神、岐神(ちまたの神)とも言われ、ほとんどが道路の辻、村境、峠などにまつられています。なぜかという、外来の邪悪なものをさへぎる神様であると言われているからです。

道祖神は地ごと極楽との境に立つて、亡くなった人を救う神様であるとも言われています。道祖神のまつられている周辺をさいの河原ともよんでいます。道祖神の塚や小祠に小石がたくさん積み上げられるのは、いつか思想からきています。道祖神の祭神である猿田彦命は、天孫こうりんの

ときに、道案内役をつとめられた神様です。
□大町の道祖神の場所
私はまず、おばあちゃんに場所を案内してもらったことにしました。



大町の道祖神は、私の家からまず、国道354号線に出ます。桜川に向かって土浦橋をめざして坂を上ります。土浦橋のたもとで土手を右に入ります。すぐに桜川ぞいに道が二またに分かれています。そこに道案内の立てふだが立っていました。



道案内のふだ



大町憩の家⑤

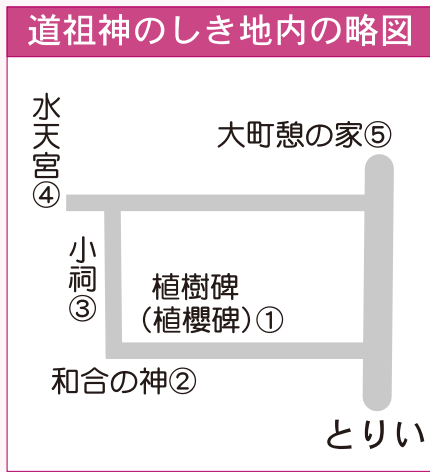
私が想像していたのとちがって、大きなとりいがあったのでびっくりしました。とりいをくぐって中に入ると、「大町憩の家」がありました。



大町の道祖神のとりい

二またの右の道の方を下っていくと、まもなく右手に、道祖神のとりいが立っていました。歩いて5分くらいで着きました。

□大町の道祖神の歴史
大町の道祖神は、享保12年に大町が作られた時、大町のお百姓さんたちが、村境をなしていた桜川のほとりに立てたと言われています。そして、昭和16年のこの水後の改修工事によって、昭和22年に今の場所に建てられました。しき地150坪は、大町五頭庄三郎さんの



しき地内にはいろいろなものが立っていたので、略図を描いてみました。
その日は小祠が閉まっていたので、おはあちゃんに聞いてみると、毎月16日には小祠が開くということなので、8月の16日にもう一度行ってみることにしました。



小祠③

これによると、明治43年1月行方郡大和村白浜の辺田桑蔵さんがたまたま土浦に来たときに大町の人に、「妻の足が悪くてこまっている」と話したところ、「大町の道祖神にお願いをしてみたらどうですか」と言われたそうです。辺田さんは、そのとおり、お願いをしてお参りしました。そうすると、すぐにご利益があって、辺田さんの妻の足は治ったそうです。
辺田さんは、お礼に桜200本を寄贈して、これを銭亀橋から道祖神にかけて植えたのが桜川の桜のはじまりです。その後大正4年に御大典記念として大町、田宿、中城の消防組が、常ばん線の所から銭亀橋まで植えたのが、桜の名所土浦のはじまりでした。私がいつも見ている桜川の桜並木が、大町の道祖神と関係していると知ってびっくりしました。



植樹碑①

寄付によるもので、小祠は大町有志信仰者の力によって建てられたものです。
境内にはいろいろな碑が立てられています。桜川堤の桜を知る上で大切な「植樹碑」についてなど土浦市についてくわしい保立さんにお話をお聞きしました。この「植樹碑」には、桜の由来がぎざまっています。



□祭日について

大町の道祖神の祭日は、4月の16日です。一ぱんに、道祖神の祭日は、1月14日、15日に行われるようですが、大町では、今の場所に建てられたのが、4月16日だということと、ちょうどお花見の時期に当たるからです。桜川のお花見と言えば、昔は道祖神の付近がお花見の中心地だったからだと思います。だから今でも4月16日は特別で、大町の老人会の方々が、おもちを作ってお参りに来た人に出したり、お茶を出したりしています。私が大町の道祖神について調べるときっかけとなったおもちも、このときのものでしたのです。

また、毎月16日には、ふだん閉まっている小祠のとびらが開きます。それから、道祖神のしき地内にある、「大町惣の家」には、当番の人たちがいて、お参りに来た人にお茶を出したりしています。この惣の家は、昭和40年に有志の人たちによって建てられました。

□祭日の道祖神の様子

私は、8月16

日に、もう一度行ってみました。すると、おばあちゃんの言っていたとおり、小祠のとびらは開いていて、惣の家には、当番の方々がたくさんいらっしやいました。

その中の一人のおじいさんに、私がいろいろ質



16日に開いている小祠



小祠のわきにぶらさがっているもの



お参りに来た人が置いていく石

問すると、小祠の前に行って、説明してくださいました。

小祠の下にある、いろいろな形の石は、足の悪い人や、旅に出る人が、気にいった石を持ってきて、足にこすりつけて、よくなるように、またはケガのないようにとお願ひして置いていきます。そして、けがもなく、足の調子がよくなると、お礼にもう一つ、新しい石を置いていくそうです。このように、足のことを願ひするのは、前にも書いたように、植樹碑の由来のお話から来ている。また、小祠のわきには、わらじや上げき、サンダルなどがぶらさがっています。

これは、お参りに来た人が持ってきた、はいた物や作った物です。「わらじを手向けて道神に平安を祈るは里の古風に残ることあり、旅行の無事を祈るためにまつられたものです。毎月16日は、4月の16日ほどお参りに来る人はいないけれど、毎月必ず来る人もいます。」



お参りに来た人が作ったひものわらじ

□道祖神のいろいろな形

道祖神には、いろいろな形やもようがあります。男女がならんでいたりと、だき合っていたりするものがほとんどで、こけし風なもの、仏像風なもの、立っているもの、すわっているものなどさまざまです。

衣服もいろいろで、地方によってもことなります。村の人々の注文がほとんどですが、石工の好みもあるそうです。だから、これといって形の決まりはないのですが、時代の差はあると考えられています。

大町の道祖神の略図にある、和合の神も、男女がだき合っている形です。なぜ男女がならんでいたりと、だき合っていたりするものが多いのかと



水天宮④



和合の神②

いうと、男女が仲よくなるのを見ると、邪悪者が入って来づらくなると思えられてきたからです。日本で一番よく見られるのは、長野県です。

4 感想

私は、道祖神について調べて、とてもいい勉強になったと思います。住んでいる町のこと、また一つふれることができた気がするし、桜川の桜並木についても学ぶことができたからです。

それから、直接行ったり、話を聞いたり、写真を撮ったりするのが楽しかったです。この「きょう土研究」をしてみたら、住んでいる町の、まだまだ知らない場所や物に出会ったので、これから、町の歴史を見たり、調べたりしたいです。

また、保立さんから聞いた話で、土浦には大町にしか道祖神が残っていないそうなので、「私の町の守り神」として、大切にしていきたいです。そして、来年の4月16日に、おばあちゃんがおもちを作って持ってきてくれるのが、楽しみです。

〈参考文献〉

- ・水郷土浦回想
 - ・道祖神は招く
 - ・道祖神のしおり
 - ・世界大百科事典
- ※優秀賞、優良賞、努力賞などの作品は、左表のとおりです。(敬称略)

賞	研究テーマ	氏名	学年
優秀賞	土浦の水路	関 梢子	下高津小2年
〃	土浦郷土かるたに登場する神社を調べて	細 矢 太一 細 矢 百花	中村小6年 〃 4年
〃	土浦の坂道	関 萌野	土浦四中1年
〃	土浦の近代建築 今も残る古い建物を訪ねて	飯 島 龍	都和中1年
〃	常磐線百年の歴史	高 橋 健大	常総学院中2年
優良賞	土浦の水害のれきしとわたしたちのまち	長 澤 協美	下高津小4年
〃	都和小学校の歴史	山 本 七聖	都和小5年
〃	かすみがうらは海だった？その2	中 川 知弥	右粉小3年
〃	二つのお寺の歴史に見る山ノ荘地区	飯 島 大 清	山ノ荘小5年
〃	筑波山の伝説 ～筑波山登山道を歩いて～	田 邊 えり	都和中1年
努力賞	土浦全国花火競技大会	濱 口 明 日 香	土浦小5年
〃	的ぶち	雨 貝 萌 大 塚 茜	穴塚小5年
〃	土浦と縄文時代 ～縄文土器作成体験を通して～	栗 原 佳 帆	大岩田小5年
〃	土浦とじょう文時代の生活 ～食生活調べを通して～	中 野 貴 登	荒川沖小5年
〃	荒川沖の歴史	吉 岡 航 大	荒川沖小5年
学校賞	右粉小学校		